

保護者会 ~近況報告

あかね園保護者会はあかね園利用者の保護者の会で、現在会員数約90名です。親の活動は開園前にさかのぼります。親達が「障害があっても働ける人は働かせたい」と願い、力を合わせて作った施設があかね園です。設立以来、保護者会はいつも園に寄り添い歩んできました。

保護者会活動の柱は30年間変わらず、月一回の定例会と、園を支えるボランティア活動です。近年の定例会では「研修」と呼ぶ親の学習の機会を設け、会員から好評を得ています。昨年度は「良い生活習慣を考える」をテーマに勉強しました。

今年度は、昨年度の学習を踏まえて「考えるだけでなく行動しよう」、「一歩前へ」を目標に掲げて話し合っています。ほとんどの保護者が我が子により自立した生活を送ってほしいと考えているので、その手がかりとして家庭よりも自立した生活の「グループホームの生活」に着目しました。

次回の定例会では、前回出された保護者からの疑問に答えながら、一人ひとりがより自立した生活を目指し、親子でまず何に取り組むかを考えて実践していきます。

先日、入園して間もない保護者が「お母さん方のあかね園に対する愛がすごい」と言いました。定例会や有志によるボランティア活動に参加することを通して、園を知らなければ知るほど保護者のあかね園への愛が深まる傾向があります。それは、設立当初からの園の理念「障害があっても長く安心して地域の中で働き、暮らす」への共感、そしてそれを実践している園への感謝です。

このご縁を大切にしたいと思います。

(会長：原田)



あかねの集い

第169号

平成30年 9月14日

発行者

社会福祉法人あひるの会 あかね園
〒275-0024

千葉県習志野市茜浜3-4-5

TEL 047-452-2715

<http://www.akaneen.com/>

まだまだ遠い…でも着実に前進している共生社会への道のり

～グループホーム建設の反対運動を受けて～

近年、あかね園や卒園生の親達にとって「我が子の将来の暮らし」に対する関心は高く、グループホームへの期待は年々大きくなりつつあります。設立30年の節目にあかね園では、今後、より「暮らし」の支援に力を入れていくことを計画に盛り込み、園では昨年度末から新規グループホームの開設に向けて動いてきました。

あかね園からほど近い、千葉市内の閑静な住宅地が候補に挙がり、土地のオーナーさんとも話が順調に進んでいる最中でした。隣接するお宅から「説明を…」との申し出を受け、訪問すると、そこには建設反対を訴える多くの署名と、インターネットからプリントした障がい者に関わりのある事件の分厚い束がありました。こちら、近隣挨拶や説明の準備を進めていたところでしたが、オーナーさんの構想を耳にした方が、先手とばかりに周辺地域に対し反対運動を展開したのでした。その後も署名活動は続き、私の元には「地価が下がる」「毎日、不安や恐れ、ストレスを抱えながらの生活は耐え難い」等の手紙まで送られてきました。

現制度において、地域の反対の声があったとしても障がい者のグループホーム建設を断念しなくてはならない法的根拠はないものの、今後、このような思いを持っている方々とそこで暮らしていく本人達を思うと心が痛くなり、今回の計画は断念することとしました。

国の目指す、障がいのある人もない人も地域で共に暮らす「共生の社会」。制度や地域のバリアフリーが整いはじめ、障がい者の企業就労も促進する中、支援する私達も近年は歩みを早め、共生社会に近づいている実感がありました。

しかし、「公共の場」や「就労の場」で受け入れられても、身近な「暮らしの場」となると依然としてハードルは高いようです。“見えない不安” “知らない不安” が先立ち、いざ賛成？反対？と問われてしまうと、“確信的（絶対に）反対”ではないものの、“懐疑的（どちらかという）反対”となってしまうのが現実です。実際に建設に反対された地域でも、卒園生と同じ職場で働く方や、毎年あかね園のバザーを楽しみにしている方等「知っている」方からは快く了承していただいております。

今回の件は園としても大変心を痛めましたが、真の共生社会を目指すには、障がい（者）の正しい理解をより広めていくことの必要性を実感させられた出来事でした。

ゴールはまだ遠いかもしれませんが、私達あかね園、利用者、そして家族は、「待つ」姿勢ではなく、地域共生に向けて一人ひとりがしっかりと準備（社会適応訓練）を進めていくと共に、地域に正しい情報と理解を促進するためにも、臆することなく地域に飛び込んで（地域活動への参加や貢献）いかなければならないと、改めて強い決意を持ちました。

あかね園施設長 松尾 公平



あかね園初のGHIは、平成16年に開設した「あかねホーム幕張」。当時はブルーの外観でした。



最も新しい「あかねホーム幕張第二」は平成29年に開設しました。

！告知！

第32回 あかね園バザー 開催のお知らせ

平成30年10月7日(日) 10:00~14:00 於 あかね園 ※雨天決行

- 企業、食品コンビニからの提供品 ●食器、文具、日用品、寝具など掘出物がたくさん！
- 恒例のタイムサービス ●和太鼓演奏など、イベントいろいろ ●食堂、フードコートあり！

☆JR新習志野駅、京成津田沼駅より送迎バスあります。(約30分間隔) ☆駐車場もあります。

お問合わせはあかね園(047-452-2715)まで



特集 職員研修

あかね園では、利用者へのより良い支援の提供を目指して、また職員の自己研鑽の場として、毎月様々な研修を企画し行なっています。人材育成は法人、施設にとって最重要項目の一つでもあります。現状に合わせた柔軟でより細かい丁寧な研修を重ねています。

<研修の目的>

- ①あかね園の理念や支援方針を認識し、必要な知識や技術を習得する
- ②視野を広げ、自己研鑽の機会をつくり、自ら学ぶ姿勢をもった職員を育成する
- ③各部署や階層に求められる役割と資質を認識し向上を図る
- ④職員同士で互いに学び合い能力を高め合う風土づくり

<6つの形式>

- ・全体研修…職員全員が参加する毎月第3水曜日の午後行う研修会
- ・グループ研修…キャリアや業務に応じた小グループの研修会
- ・新人職員研修…入社した職員に対して行なう研修会
- ・内部見学会…小グループでの法人内の外班やグループホームの見学会
- ・自由参加型勉強会…職員誰もが自由に参加できる勉強会を年7回程度実施
- ・個人研修…外部主催のセミナー等へ参加、一人当たり年1～3回程度



【職員研修実施内容の一例】

全体研修	グループ研修	新人研修	内部見学会	自由参加型勉強会
<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画と予算 ・権利擁護、虐待防止 ・企業、他機関の見学  <ul style="list-style-type: none"> ・防災 ・外部講師依頼研修 ・内部職員による研修「利用者対応について学ぶ」等 ・保健、衛生管理（感染予防） 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者としての姿勢 ・発達障害の基礎知識と支援方法 ・自立した生活とは ・相手に伝わる支援記録の残し方 ・利用者支援の疑問や悩みを話し合おう ・タイムマネジメント ・あかね園をアピールしてみよう ・文書作成のポイント ・コミュニケーション ・会議の上手な進め方 ・支援者の問題意識の捉え方 ・制度施策の動きと暮らし ・外作業班の心得 ・面談の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人や施設の成り立ち ・社会人としての基本的マナー ・権利擁護、虐待防止 ・あかね園職員としての心構え ・制度施策について ・利用者支援について 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホーム見学 ・外作業班見学  	<ul style="list-style-type: none"> ・就労系サービスの役割①～障がい者総合支援法から考える～ ・就労系サービスの役割②～個別支援計画から考える～ ・就労系サービスの役割③～あかね園の支援が必要な理由について考える～ 

中途採用等、幅広い年齢層の新入職員を対象とした**グループ型研修**と、今年度から始まった**自由参加型勉強会**に参加した職員の声をご紹介します！

視野が広がりました！
20代 女性職員

研修を通して、自分にはない考え方や支援方法について学ぶことができました。今後も様々な人の考えや対応方法を知る中で力をつけていけたら、と思います。

改めて聞いて良かった
30代 男性職員

勤めて5年目。最近は「今さら」と思われることが聞きにくい経験年数にもなったのでこういったスキルアップと確認の機会を今後も設けてほしいです。



有意義な時間でした
20代 女性職員

福祉の制度等について、自分で勉強して理解するには時間もかかり、難しいと感じていましたが、ポイントで話を聞くことができ、自分の中で理解を深めることができました。



楽しくも、緊張感ある研修
20代 男性職員

実際の場面を想定しての研修等、実践的な内容の中で緊張感もあり、その中で他の職員の手法や意見を取り入れることができスキルの上につながられました。



意外なことも知れました
60代 男性職員

定年後、あかね園に入職。福祉に関する知識が全くなかったため、研修は有難かったです。また、研修を通して正社員の職員が普段、大変苦労されていることも良くわかりました。

訓練の大切さを実感！
30代 女性職員

実際の事例を通して、あかね園の一つひとつの取り組み（訓練）が、社会に出るために必要だということを改めて考えることができました。

自信になりました！
20代 男性職員

研修で学んだことは、日頃の訓練現場や訪問企業先でも活かせる内容で有難かったです。今まで学んできたことが試され、振り返る時間は若手職員にとっては大変貴重です。

もっと研修の機会を
30代 男性職員

異業種から転職して2年目。あかね園は自分に合った研修を選んで参加できるのでうれしい。知識向上のため、もっと研修の時間を設けてほしい。



支援の「基本」を再確認！
30代 男性職員

本人、家族の望む支援と現状でできる支援を合致することの難しさを再認識しました。支援者として、どんな支援がベターなのか、改めて「本人主体」を再確認できました。

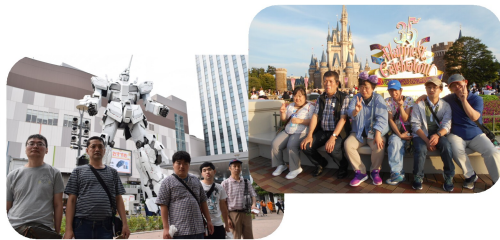
もっと早く受講したかった
40代 女性職員

これまで受けてきた研修より具体的にわかりやすかったです。利用者さんが帰宅してからの時間でしたが、受講して大変良かったです。もっとじっくり話を聞ければ、と思いました。

< 6～7月のあかね園の動き >

●就労継続支援B型事業：一泊旅行

6月7～8日の2日間、ディズニーランドホテルを宿泊先とし、東京ディズニーランド～お台場に行ってきました。アトラクションを多く楽しむ方、夜のパレードを見るために一旦ホテルで休憩する方など、グループ毎に行動を決定し、ディズニーの雰囲気皆さん終始ワクワクした表情で過ごされていました。2日目のお台場も、事前に話し合いをしてスポッチャと日本科学未来館に分かれて散策を行ないました。2日間それぞれ希望の場所で存分に楽しんで過ごすことができました。（吉原）



●自立訓練事業：一泊旅行

7月19～20日、神奈川県相模湖方面に行ってきました。“自分のことは自分で”をテーマに、2週間かけて持ち物や当日の計画立て等、入念に準備してきました。当日は早起きからカレー作り、トレーラーハウスでの宿泊、野菜の収穫、釣った魚を自分でさばいて食べる等、体感型のプログラムを数多く盛り込みました。初めて見る物・触れる物に対して目を輝かせている姿が非常に印象的でした。（石坂）

